

2016 年度（対象年度：2015） 自己点検・評価シート 【大学全体の視点】

基準 4	教育内容・方法・成果
44	成果

I. 自己点検・評価

1. 点検・評価項目等に基づく状況確認 《評定形式》

自己評価欄に「A：適切に実行している」「B：概ね実行している」「C：あまり実行していない」「D：実行していない」の4段階で記入してください。

項目 No.	評価項目	点検項目	自己評価	
			個別	総合
441	【大学全体の視点】 「学生に保証する基本的な資質」に沿った成果が上がっていますか。	【大学全体の視点】 ①学生の学習成果を測るための指標を定め、成果を確認していますか。【※どのように】 ○学習成果を測るための評価方法や評価指標の開発	C	B
		【大学全体の視点】 ②成績分布、試験放棄（登録と受験の差）、進級などの実績を学部・学科として把握していますか。 ○学習成果に関する情報の把握と共有	B	
442	【大学全体の視点】 学位授与（卒業認定）は適切に行われていますか。	【大学全体の視点】 ③学位授与の方針に従って学位授与を行っていますか。 ODP や履修要項における卒業認定方法、卒業要件の明示	A	A

2. 現状説明 《記述形式》

対象年度における取り組みを、点検・評価項目の観点から、改善状況を含め総括してわかりやすく説明してください。点検項目欄【※どのように】と記載のある項目は、取り組み内容を具体的に、記述してください。

441①「学生に保証する基本的な資質」については、各学部等がそれらの測定に必要な指標の具体化に向けて主体的に取り組むことが確認されている。各学部の取り組みを補完する仕組みとして『学生に保証する基本的な資質』に関する意識調査を提案し、2015年度は学部共通コースを含むすべての学部等で実施した。今後、調査結果等を教務会議等で確認し、学習成果測定を補完する情報として活用する。

学習成果を確認する方法については、DP と CP との整合性、CP と個々の授業との関連性、また、その関係性や到達目標をシラバスで明示することで、各科目の成績評価の基準の適正化を図ることが必要であり、このような関連性をあらためて全学的に確認するなどして、その確認方法を検討する。

441②成績分布については、4年制学部では GPA（成績加重平均値）を導入し、この結果をもとに成績分布を把握している。短期大学部については、平均値（成績平均値）をもとに、成績分布を把握している。進級などについては、全ての4年制学部で修得単位数の基準を設け、定期的に単位僅少者を把握し、指導を行っている。

442③学位授与（卒業認定）については、「龍谷大学学位規程」や「コース修了に必要とされる単位数及びコース修了認定方法」に基づき、各学部教授会及び研究科委員会において厳正に行われている。卒業に必要な要件や必要単位数については、『履修要項』『大学 HP』に掲載し、学生に明示している。

認証評価結果において努力課題となった「全研究科の博士後期課程において、修業年限内に学位を取得できず、課程の修了に必要な単位を取得して退学した後、在籍関係のない状態で学位論文を提出した者に対し課程博士として学位を授与していることは適切ではない」ことについては、大学院運営委員会において検討を進めている。

大学院学則第 38 条第 6 項を適用する在学の学費を見直すため、他大学を参考に学費シミュレーションを作成しており、今年度中に改善の方向性を決定し、2017（平成 29）年度までに「龍谷大学大学院学則」の変更及び「龍谷大学学位規程」の改正を行う。

〔改善すべき点の確認〕 前回の点検・評価で、自ら「改善すべき点」と掲げた事項や、評価結果で「改善すべき点（【改善勧告】【努力課題】【留意点】）」とされた事項があれば、この欄に箇条書きで記載してください。

（自ら「改善すべき点」と掲げた事項）

学習成果の成果については、DP と CP との整合性、CP と個々の授業との関係性、また、その関係性や到達目標をシラバスで明示することで、各科目の成績評価の基準の適正化が見込まれる。については、このような関連性をあらためて全学的に確認するなど、成果の確認方法を検討する。

（評価結果で「改善すべき点（【改善勧告】【努力課題】【留意点】）」とされた事項）

- ・一部の組織では、シラバスの組織的なチェックとともに、客観的な指標の部分的導入や成績分布に関する FD を実施し、効果を上げている。このような組織（教育課程）と個人（授業）の連携を周知するための組織的な研修等を推進する必要がある。【留意点】
- ・認証評価結果において努力課題となった「全研究科の博士後期課程において、修業年限内に学位を取得できず、課程の修了に必要な単位を取得して退学した後、在籍関係のない状態で学位論文を提出した者に対し課程博士として学位を授与していることは適切ではない」ことについては、研究科における学位論文の審査基準や指導計画（教員側から学生へ行う具体的な指導行動とその目的）の適切な明示とともに、早急に改善する必要がある。【努力課題】

3. 効果が上がっている点とその伸長方策 《箇条書き》

現状説明を踏まえ、効果が上がっている事項（特色ある取り組みや成果創出など）とその伸長方策を記述してください。

学習成果測定を補完する情報として活用するため、『学生に保証する基本的な資質』に関する意識調査を提案し、2015 年度は学部共通コースを含むすべての学部等で実施した。

4. 改善すべき点とその改善方策 《箇条書き》

現状説明を踏まえ、改善すべき事項とその改善方策を記述してください。

DP と CP との整合性、CP と個々の授業との関連性、また、その関係性や到達目標をシラバスで明示することで、各科目の成績評価の基準の適正化を図ることが必要であり、このような関連性をあらためて全学的に確認するなどして、制度の確認方法を検討する。

5. 根拠資料 《リスト形式》

項目 No.	根拠資料の名称
441	2015 年度『学生に保証する基本的な資質』に関する意識調査用紙
442	大学 HP (http://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy.html)（電子データなし）
442	龍谷大学学位規程

II. 評価結果

総評
学習成果の確認について、『学生に保証する基本的な資質』に関する意識調査を提案し、2015年度は学部共通コースを含むすべての学部等で実施した点は評価できる。シラバスチェックも組織的に行う体制が整ったので、今後、3つのポリシーの見直しとあわせて、検証を充実させていただきたい。また、「自ら「改善すべき点」と掲げた事項」に記載されているとおり、DPとCPとの整合性、CPと個々の授業（シラバスの到達目標）との関連性を全学的に確認するなどして、その検証方法（評価指標の開発等）を検討していただきたい。 認証評価結果において努力課題となった「在籍関係のない状態で学位論文を提出した者に対し課程博士として学位を授与していることは適切ではない」ことについては、計画の通り、2016年度に改善の方向性を決定し、2017年度までに「龍谷大学大学院学則」の変更及び「龍谷大学学位規程」の改正を行っていただきたい。 学位授与（卒業認定）については、「龍谷大学学位規程」や「コース修了に必要なとされる単位数及びコース修了認定方法」に基づき、卒業に必要な要件や必要単位数についても、『履修要項』『大学HP』に掲載し、学生に明示し、各学部教授会及び研究科委員会において行われていると判断できる。
伸長すべき点（長所） 《箇条書き》
学習成果の確認について、『学生に保証する基本的な資質』に関する意識調査を提案し、2015年度は学部共通コースを含むすべての学部等で実施した点は評価できる。シラバスチェックも組織的に行う体制が整ったので、今後、3つのポリシーの見直しとあわせて、検証を充実させていただきたい。
改善すべき点 《箇条書き》 *各項に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載
・認証評価結果において努力課題となった「在籍関係のない状態で学位論文を提出した者に対し課程博士として学位を授与していることは適切ではない」ことについては、計画の通り、2016年度に改善の方向性を決定し、2017（平成29）年度までに「龍谷大学大学院学則」の変更及び「龍谷大学学位規程」の改正を行っていただきたい。 【努力課題】 ・「自ら「改善すべき点」と掲げた事項」に記載されているとおり、DPとCPとの整合性、CPと個々の授業（シラバスの到達目標）との関連性を全学的に確認するなどして、その検証方法（評価指標の開発等）を検討していただきたい。 【留意点】
※【改善勧告】【努力課題】は、改善計画書の提出が必要

III. 大学基準協会からの助言について

助言内容
【認証評価結果 努力課題】 1) 全研究科の博士後期課程において、修業年限内に学位を取得できず、課程の修了に必要な単位を取得して退学した後、在籍関係のない状態で学位論文を提出した者に対し「課程博士」として学位を授与していることは適切ではない。課程博士の取り扱いを見直すとともに、課程制大学院制度の趣旨に留意して修業年限内の学位授与を促進するよう、改善が望まれる。 【分科会報告書 課題】 1) 研究科における学習成果を測定する評価指標の開発については、組織的に取り組む状況には至っていない。卒業生に対する学習成果に関する調査も実施されていない。今後は、学部の取り組みに準じた方策を検討することが望まれる。

IV. 全学的課題事項

2015 年度	■評価項目 No.442 認証評価結果において努力課題となった「全研究科の博士後期課程において、修業年限内に学位を取得できず、課程の修了に必要な単位を取得して退学した後、在籍関係のない状態で学位論文を提出した者に対し課程博士として学位を授与していることは適切ではない」 ことについては、研究科における学位論文の審査基準や指導計画（教員側から学生へ行う具体的な指導行動とその目的）の適切な明示とともに、早急に改善する必要がある。【努力課題】
---------	---